

(3) 安心・安全に暮らせる地域づくり

<現状分析・課題>

▼ 安心・安全な暮らしを支える社会基盤の整備を今後とも進める必要があります。

- ・中丹地域はこれまで数多くの豪雨災害に見舞われており、さらに近年、毎年のように全国各地でこれまで経験したことのないような豪雨により、深刻な災害が発生していることから、中長期視点に立って治水対策を進めています。(平成16(2004)年以降、5回の災害救助法適用)
- ・府内で2度目の大雨特別警報が発表され記録的な大雨となった平成30年7月豪雨では、管内各地で大規模な土砂災害が発生して死者が出たり、土砂ダムが発生したり、土石流発生箇所では避難生活を余儀なくされる人が出たりする事態となっています。
- ・由良川の築堤が進捗し、大雨に対して効果を発揮する一方で、内水被害の発生のほか、荒廃した森林で山腹崩壊や風倒木が発生する場合があります、橋りょう部で流木が河道をせき止めることによる河川の氾濫など新たに対策が必要な課題が発生しています。
- ・橋りょうなど老朽化施設の長寿命化対策を進めていますが、今後も老朽化施設の更なる増加が見込まれています。

▼ ハード面の整備に加えてソフト施策を効果的に組み合わせた防災・減災対策の推進が今後とも必要です。

- ・平成30年7月豪雨をはじめ最近の豪雨災害では、避難に関する住民一人ひとりの意識の向上や地域ぐるみでの防災・減災対策が課題として浮き彫りになってきたところであり、ハード面の整備に加えてソフト施策(情報伝達体制の工夫、警戒体制づくり、地域での危険箇所の情報共有や早期の避難等)を効果的に組み合わせていく取組を進めています。

▼ 新興感染症などの発生に対応できる保健・医療・介護体制を平時から備えておけるシステム、ネットワークづくりや、特に高齢者や子どもたちが住み慣れた地域社会の中で、安心して暮らし続けることができる環境づくりが必要です。

▼ 万一の原子力災害への備えが今後とも必要です。

- ・中丹地域は高浜原子力発電所及び大飯原子力発電所から30km圏内のエリアに位置しており、福井県境では高浜原子力発電所から5km圏内で暮らす住民も存在します。こうした